

平成16年7月26日

委員長コメント

1. 今回の報告期間は平成16年3月29日より平成16年6月27日までの約3ヶ月であり、法定報告に基づく新規HIV感染者報告数は、平成16年1月に報告された194件を更新し199件と過去最高となり、新規AIDS患者報告数は78件で前回を上回った。
(前回：HIV感染者150件・AIDS患者69件)
(前年同時期：HIV感染者135件・AIDS患者81件)
2. 性別に見ると、HIV感染者報告数199件のうち186件(約93%)、AIDS患者報告数78件のうち68件(約87%)を男性が占めている。従って、男性のHIV感染者及びエイズ患者の動向が全体の動向を左右していると理解して差し支えない。
3. 感染経路別に見ると、HIV感染者では同性間性的接触によるものが男性125件(感染者全体の約63%)と最も多く、異性間性的接触によるものは55件(約28%、男性45件・女性10件)であった。
一方、AIDS患者では同性間性的接触によるものが男性25件(患者全体の約32%)、異性間性的接触によるものが29件(約37%、男性23件・女性6件)であった。
4. 年齢別に見ると、HIV感染者では20代～30代の占める割合が高く、感染者全体の約72%(144件)を占めている。
一方、AIDS患者では患者分布はHIV感染者より高年齢層に広がっており、30歳以上が、71件(約91%)であった。
5. 平成16年4月から6月末までの保健所等におけるHIV抗体検査件数は14,358件
自治体を実施する保健所以外の検査件数は4,251件、保健所における相談件数が29,730件であった。
(平成15年4月～6月末までの保健所における検査件数は15,625件、自治体を実施する保健所以外の検査件数は4,001件、保健所における相談件数は34,365件)
6. 平成16年1月～6月の献血件数(速報値)は2,740,576件で、そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数は45件(昨年同時期22件)、10万件当たりの陽性件数は1.642件であり、増加している。
7. 今回の報告では、特にHIV感染者報告数は過去最高となり、中でも「日本国籍の男

性の同性間性的接触」による増加が顕著であった。今後、青少年を対象とした予防啓発事業もさらに推進していく必要がある。

- 8 . 報告されたエイズ患者は、H I Vに感染しても発症するまで受診しなかった人達であり、この数が減少しないと云う事は、検査機会を増やす必要のある事を示唆している。自治体を実施する保健所以外の検査件数は増加傾向にあり、このような検査機会を増やす事に対しての潜在的な要求がある事を意味している。現在、東京都・名古屋市・大阪市などで時間帯等に配慮した利便性の高い検査相談室等が開設されており、また診療報酬改定により、「H I Vの感染に関連しやすい性感染症が認められる場合でH I V感染症を疑わせる自覚症状がある場合は、本検査を算定できる」こととなったこともあり、自治体においては、保健所やそれ以外での検査を推進すると共に、医療機関での検査の機会についても拡げていく事が望まれる。感染の早期発見により、感染者本人が治療によるメリットを受けることができ、かつ本人が自分の感染を知る事により次の感染を押し止める事に繋がり得る。
- 9 . 献血における陽性率が増えているため、血液安全の観点からも、自発的な検査機会の増加が望まれる。

平成16年7月26日

エイズ動向委員会の結果報告について

1 本日の委員会では、平成16年3月29日より平成16年6月27日までの感染症法に基づく患者・感染者報告並びに平成16年4月1日から平成16年6月30日までの任意報告を解析した。

2 平成16年3月29日より平成16年6月27日までの間に感染症法に基づき報告された新規エイズ患者数は78件、新規HIV感染者数は199件であった。

患者78件、感染者199件の内訳は、

感染原因別では、異性間の性的接触による患者29件、感染者55件、同性間の性的接触による患者25件、感染者125件、静注薬物濫用による感染者1件、その他の原因による患者2件、感染者7件、原因不明の患者22件、感染者11件であった。

性別では男性患者68件、感染者186件、女性患者10件、感染者13件であった。

年齢区分別では、患者は20代7件、30代28件、40代14件、50歳以上29件、感染者は、10代1件、20代67件、30代77件、40代30件、50歳以上24件であった。

国籍別では日本人患者59件、感染者171件、外国人患者19件、感染者28件であった。

感染地域別では、国内で感染した患者57件、感染者158件、海外で感染した患者7件、感染者14件、感染地域不明患者14件、感染者27件であった。

3 患者78件、感染者199件のうち

異性間の性的接触による患者29件、感染者55件のうち日本人男性は、患者22件、感染者33件、日本人女性は、患者3件、感染者4件であった。

また、外国人男性は、患者1件、感染者12件、外国人女性は、患者3件、感染者6件であった。

日本人男性患者54件のうち20代5件、30代18件、40代7件、50歳以上

24件、日本人男性感染者167件のうち、10代1件、20代58件、30代61件、40代24件、50歳以上23件であった。

また、日本人女性患者5件は30代1件、40代1件、50歳以上3件、日本人女性感染者4件のうち、20代2件、30代1件、40代1件であった。

外国人男性患者14件のうち、20代2件、30代8件、40代2件、50歳以上2件、外国人男性感染者19件のうち、20代5件、30代11件、40代2件、50歳以上1件であった。

また、外国人女性患者5件のうち、30代1件、40代4件、外国人女性感染者9件のうち、20代2件、30代4件、40代3件であった。

国内感染による患者57件のうち日本人男性が46件、日本人女性が4件、外国人男性が6件、外国人女性が1件であった。

また、国内感染による感染者158件のうち日本人男性が148件、日本人女性が4件、外国人男性が5件、外国人女性が1件であった。

海外感染による患者7件のうち日本人男性が3件、外国人男性が2件、外国人女性2件であった。

また、海外感染による感染者14件のうち日本人男性が8件、外国人男性が5件、外国人女性が1件であった。

4 任意報告により

キャリア等からエイズ患者になったとの報告1件であった。

患者・感染者の死亡2件はエイズが原因が0件、その他の原因が2件であった。

死亡報告2件のうち、40代1件、50歳以上1件であった。

5 平成16年1月から6月末までの保健所におけるHIV抗体検査件数は14,358件、自治体が実施する保健所以外の検査件数は4,251件、保健所における相談件数は29,730件であった。

6 平成16年1月から6末日までの献血件数2,740,576件(速報値)のうち、HIV陽性件数は45件であった。